

## 組織目標評価報告書(2019年度)

部局名:

埋蔵文化財調査研究センター

部局長名:

渡邊 和良

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		<b>教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
	目標に関連する 年度計画の番号	
<b>【教育課程に関する具体的方策】</b> ・博物館実習の授業の一部を分担し、構内遺跡の調査・研究成果を活かした授業を実施する。 ・授業に際しては、1班10名以下の少人数制をとり、自発的な思考や発言を促すことによって、授業内容に対する習熟度をあげる。学生全員が発表する時間を確保し、課題解決型教育に資する。 ・職場環境で実習することによって、実践型社会連携教育の拡充に寄与する。 <b>【教育方法に関する具体的方策】</b> ・授業に際しては、SAを1名以上をあてる。 <b>【学生支援に関する具体的方策】</b> ・ワークスタディを利用する学生を2名以上雇用し、本センターの職場環境を「働く場」として提供することで、社会性を育成するための教育視点と同時に経済的支援を行う。	2② 7③ 19②	<b>【教育課程に関する具体的方策】</b> ・博物館実習の授業の一部を分担し、構内遺跡の調査・研究成果を活かした授業を実施した。 ・授業に際しては、出席者を2班に分けて、1班6名と7名の少人数制をとり、授業内容の習熟度をあげると同時に、学生全員が発表する時間を確保し、課題解決型教育に資する結果を得た。 ・職場環境で実習することによって、実践型社会連携教育の拡充に寄与した。 <b>【教育方法に関する具体的方策】</b> ・授業に際しては、SAを1名をあて、指導の経験を積ませることができた。 <b>【学生支援に関する具体的方策】</b> ・ワークスタディを利用する学生を2名雇用し、センターの職場環境を利用した社会性の育成と同時に経済的支援を実施した。  以上、全ての項目で目標に達した。
<b>②研究領域</b>		<b>研究領域の目標の達成状況</b>
	目標に関連する 年度計画の番号	
<b>【目指すべき研究の方向性と水準に関する具体的方策】</b> ・構内遺跡をはじめとする考古学・埋蔵文化財の調査・研究に関して、国内外あるいは異分野の研究者との共同研究を2件以上実施し、国際水準の研究拠点としての活動を目指す。 ・教員の個別研究を推進し、構内遺跡の研究成果とともに広く外部に発信し、論文および口頭発表を7件以上とする。 ・3次元計測器やドローンを使用した新たな測量技術の活用を推進する。	27①	<b>【目指すべき研究の方向性と水準に関する具体的方策】</b> ・国内外の異分野研究者との共同研究は9件で、目標値を大きく上回った。その内には、国際的共同研究2件が含まれる。 ・本センター教員が代表者となる論文は8本(異分野研究者との共同研究1件を含む)、口頭発表は14本(異分野研究3本・国際学会での発表3本を含む)で合計22本に達し、目標値を大きく上回った。それ以外に、共同研究者として、論文1本と口頭発表7本(内6本は異分野研究者との研究・2本は国際的な研究)が加わる。全てを合わせると、論文は9本・口頭発表は21本で30本となり、異分野研究者との論文2本・口頭発表8本、そして国際的な研究論文1本・口頭発表5本となる。 ・3次元計測器やドローンの活用の推進では、構内遺跡の調査1件、岡山県教委の埋蔵文化財調査での活用指導1件、そして、海外における政府機関の文化財保護活動への協力に対応した利用事例2件である。その結果、国際貢献を含めた4件があげられる。 ・教員1名が本学若手トッピサーチャー賞を受賞した点も特筆される。 全ての項目で、異分野研究者との共同研究と国際的研究を含んでおり、目標値を大きく上回る結果を得た。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		<b>社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況</b>
	目標に関連する 年度計画の番号	
<b>【社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置】</b> ・公開講座3回・展示会1回を開催し、構内遺跡の調査をはじめとする研究の成果を積極的に発信し、社会に向けて大学からの知の還元を図る。 ・地域の埋蔵文化財に関する事案に対して指導的な助言を行い、地方公共団体などの埋蔵文化財行政に寄与する。指標は4件以上である。 ・自治体などが開催する講座の講師要請に応じて(1件以上)、大学からの知の還元を図ることで、社会連携を推進する。 ・構内遺跡の調査成果を活用して、地元の小・中学校の教育活動に協力する(2件以上)。 ・本学周辺地域の「まちづくり」活動に協力し、地域の活力アップに貢献する(1件)。	47② 48①	<b>【社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置】</b> ・公開講座を2回開催した。なお、3月開催予定であった公開講座及び展示会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期した。 ・地域の埋蔵文化財に関する事案に対しての指導的な助言については、8件の地方公共団体などからの依頼に対応した。 ・自治体などが開催する講座の講師としては2件、学内を加えると4件となり、目標値を上回った。 ・地元の小・中学校の教育活動に対して、2校の中学生の職場体験を受け入れ、目標値に達した。 ・本学周辺地域の「まちづくり」活動については、鹿田地区の町内会から依頼のあった夏祭りイベントに参加し、地域の活力アップに貢献した1件があげられる。  以上、全てにおいて、目標値を達成した。
<b>④管理運営領域</b>		<b>管理運営領域の目標の達成状況</b>
	目標に関連する 年度計画の番号	
<b>【外部研究資金・寄付金その他自己収入の増加に関する目標を達成するための措置】</b> ・科研費の申請を100%以上とし、採択率50%以上を目指し、外部研究資金の獲得に資する。 ・公開講座の有料化を継続し、自己収入の増加に資する。参加者数は100名以上を目指す。 <b>【施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置】</b> ・センター建物の老朽化に対して、適切な修理を行うことで長期利用に備える。 <b>【安全管理に関する目標・法令遵守等を達成するための措置】</b> ・安全衛生担当委員を中心に周知徹底を図る。 ・各種法令遵守を徹底するため、それぞれに担当者を決めて毎月の会議で注意喚起を促す。 ・各種研修・講習に積極的に参加する。  ・非常勤職員の技術力や専門的知識の育成を図り、調査・研究体制を強化する。	87② 89① 91③ 92① 93②	<b>【外部研究資金・寄付金その他自己収入の増加に関する目標を達成するための措置】</b> ・科研費の申請は、継続分を含めると120%に達し、それ以外にも1件の申請が行われた結果、全体で140%の申請率となった。採択率は、昨年度から新規の1件を加えて、教員の科研費(代表)保有率は60%となった。新規採択の科研費は基盤(B)であり、獲得金額も大幅にアップした。 ・公開講座の有料化を継続した。参加者数は100名弱であり、自己収入の増加に務めた。 ・寄付金の獲得を目指して、本学初となるクラウドファンディングに取り組んだ。 <b>【施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置】</b> ・新たな保管スペースを確保し、その環境整備によって長期利用に備えた。 <b>【安全管理に関する目標・法令遵守等を達成するための措置】</b> ・安全衛生担当委員を中心に周知徹底を図った。 ・各種法令遵守を徹底するため、それぞれに担当者を決めて毎月の会議で注意喚起を促した。 ・各種研修・講習に積極的に参加した。 ・非常勤職員の技術力や専門的知識の育成を図り、調査・研究体制を強化した。 講座参加数がやや少ないが、ほとんどの項目で目標に到達あるいは目標を大きく上回った。
<b>⑤センター・機構等業務</b>		<b>管理運営領域の目標の達成状況</b>
	目標に関連する 年度計画の番号	
<b>【施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置】</b> ・発掘調査2件を実施し、本学の施設整備の推進に寄与する。 <b>【法令遵守へのとりくみ】</b> ・構内遺跡に対して、建築工事に伴う発掘調査や立会調査などを適切に実施する。調査にあたっては、その効率化と質の向上に努める。 ・発掘調査報告書作成のための整理作業を推進し、発掘調査報告書1冊を刊行する。 ・出土遺物・資料について適切な保管・管理を推進する。 <b>【情報公開等や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置】</b> ・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2018』・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』62号・63号を刊行し、本センターの調査研究活動を積極的に分かりやすく社会に発信する。 ・ホームページの更新を積極的に実施し、情報発信に努める。	86① 85①	<b>【施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置】</b> ・発掘調査2件を実施し、本学の施設整備の推進に寄与した。 <b>【法令遵守へのとりくみ】</b> ・構内遺跡に対して、建築工事に伴う発掘調査や立会調査などを適切に実施し、調査にあたっては、最先端の測量技術(ドローン撮影・3次元測量など)を積極的に導入して、その効率化と質の向上に努めた。 ・発掘調査報告書作成のための整理作業を推進し、発掘調査報告書1冊を刊行した。 ・出土遺物・資料について適切な保管・管理を推進し、1件の保存処理を実施した。 <b>【情報公開等や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置】</b> ・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2018』・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』62号・63号を刊行した。 ・ホームページの更新を積極的に実施し、情報発信に努めた。  全ての項目において、目標に達した。